東ひろしまの遺跡 Vol.5

謎の土玉と小川を埋めた弥生土器

杵原６号遺跡（高屋町杵原）

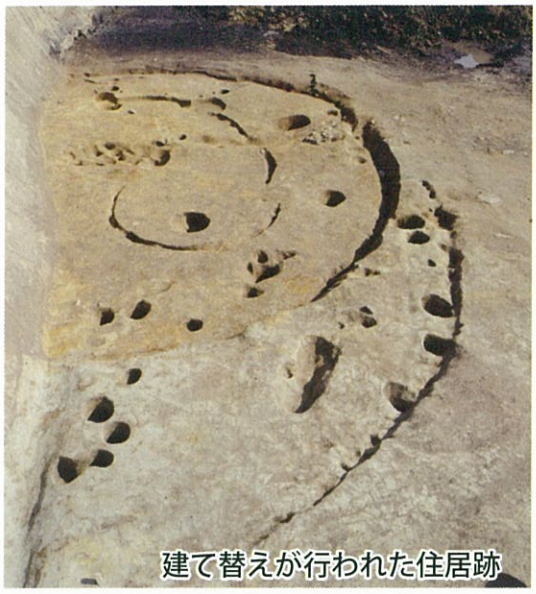
小川から出土した弥生土器の取上状況

杵原6号遺跡は、平成28年5月～12月まで住宅団地建設事業に伴って発掘調査を実施しました。

遺跡は、JR西高屋駅から北へ約600ｍ離れた杵原川とその支流の正原川に挟まれた低い丘陵の先端に位置しています。発掘調査の結果、弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡、古墳時代から中世の掘立柱建物跡や溝状遺構のほか、土坑・ピットなどの遺構が見つかりました。

また、北から南に流れる埋まった小川が３本確認され、中からは多量の弥生土器や焼石、土師器が見つかりました。

弥生時代の竪穴住居跡は４軒見つかり、平面形は全て円形でした。中には重なり合っているものもあり、建て替えや増築が行われたとみられます。古墳時代の竪穴住居跡は、平面形が方形で、柱が２本しかない珍しいタイプのものも見つかりました。


建て替えが行われた住居跡

２本柱の住居跡

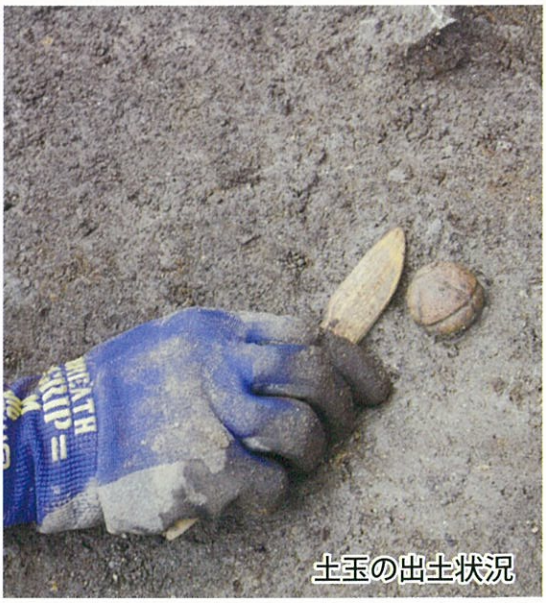
これらの住居は、生活用水を確保するのに便利なように、小川のそばに建てられていました。

調査区の中央を流れる小川の上流部分からは、弥生土器の破片と拳程度の大きさの焼石が多量に見つかりました。土器は壊れて破片となり、表面もすり減っていたことから、さらに上流から流れてきたものとみられます。おそらく、上流にも弥生時代の集落跡が存在しているのでしょう。焼石の目的ははっきりしませんが、甕など、底がすぼまった土器で煮炊きする際に、炉の中で土器が転倒しないように固定したものかもしれません。

同じ小川からは直径3㎝の丸い土玉が出土しました。表面には細い紐を掛けるのにちょうどよい浅い刻目が縦方向に２条、横方向にも１条巡っていました。

この土玉の使い方は、魚を魚獲するための投網の錘か、水鳥の長い脚や首に紐をからめて捕獲するための投てき具の錘の可能性があります。遺跡の西側には杵原川が流れており、そこでの漁撈や狩猟に用いられたのでしょうか。

小川一面に広がる弥生土器と焼石


土玉の出土状況

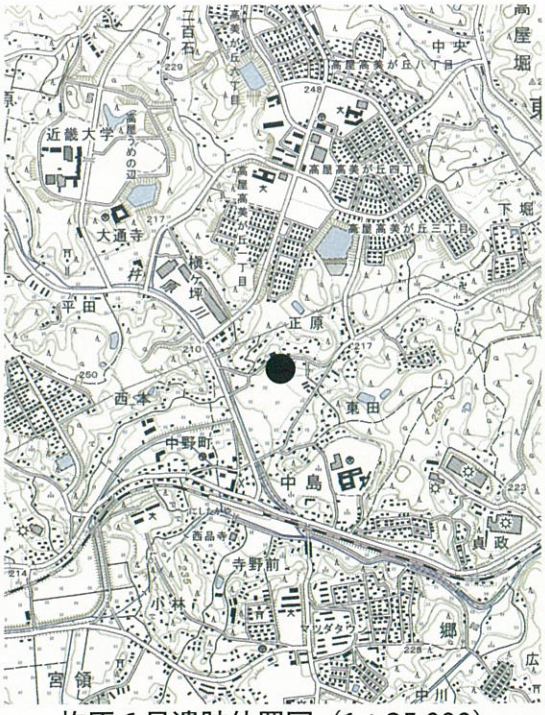
土玉

投てき具のイメージ図

杵原川の本流の入野川にはアユ、コイ、カワムツが生息しており、さらに下流の沼田川では現在もアユ漁がおこなわれています。川岸の葦原はカモやアオサギなどの水鳥の棲み家となっており、弥生時代の人々は農耕の合間にこれらの魚や鳥を捕って食糧としていたのでしょうか。

また、古墳時代の住居跡の近くでは小型壺・甕・高杯などの土師器が川岸に置かれた状態で出土しており、何らかの祭祀を行った跡とみられます。日常生活や農耕に不可欠な水に感謝する祈りをささげたのか、あるいは小川の水に穢れを流す「祓」のような儀式を行ったのかもしれません。

川岸に置かれた土器



杵原６号遺跡位置図（1：25,000）

弥生時代から江戸時代まで

友松５号遺跡（西条町寺家）

発掘調査の様子

友松５号遺跡は、平成28年４～５月に住宅団地の造成に伴って発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、掘立柱建物跡、井戸、埋桶・埋甕土坑、溝状遺構、ピットなどの遺構が検出され、弥生土器、江戸時代の土師質土器・陶磁器などの遺物が出土しました。

掘立柱建物跡の柱穴は、柱材が沈まないように平石を置いており、比較的しっかりとした建物であったと考えられます。多くは江戸時代後期の遺構でしたが、この掘立柱建物跡の時期は特定できませんでした。

柱穴の断面

東広島市出土文化財管理センター報
東ひろしまの遺跡　Vol.5

発行日　2017(平成29)年３月10日
発　行　東広島市出土文化財管理センター
（東広島市河内町中河内651番地7
TEL:082-420-7890　〒739-2201）
編　集　東広島市教育委員会生涯学習部文化課
E-Mail　hgh207890@city.higashihiroshima.lg.jp
印　刷　大東印刷株式会社